

レボノルゲストレル放出子宮内システム(LNG-IUS)の 5年間留置後の再挿入の背景に関する検討

〔研究目的〕

レボノルゲストレル放出子宮内システム(LNG-IUS)は挿入後5年で抜去し再挿入を検討します。しかし再挿入を要するリスク因子の検討はされていません。リスク因子の検討がされていれば、長期的な治療計画に立案に有用と想定され、治療の改善につながると考えられます。

そのため、再挿入を要するリスク因子の解析を目的とします。

〔研究意義〕

本検討によりリスク因子を解析し、事前の把握によって長期的な治療計画立案の幅を広げる一役となることを目的とします。

〔対象・研究方法〕

x2

〔研究機関名〕

帝京大学ちば総合医療センター 産婦人科

〔個人情報の取り扱い〕

研究に利用する情報は、患者さんのお名前、住所など患者さん個人を特定できる個人情報は削除して管理します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんが特定できる個人情報は利用しません。患者さんからご自身の情報開示等の請求は個々に対応いたします。また、研究終了後にデータセット等を倫理委員会事務局に提出し、帝京大学臨床研究センターにて10年保管後に廃棄いたします。

下